令和３年度 福井県立金津高等学校 学校評価書

項　目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程・ 学習支援 〔教務部〕 〔授業改善・ IPT企画室〕	① 大学進学等を見据えた特色ある教育課程を研究・開発し、地域に対して積極的に広報する。	○ 教員は新学習指導要領を見据え、積極的に授業改善に取り組めている。 ○ 生徒はいずれの学年も、自分の進路に応じた教育課程に対する理解度が高い。 ○ 子どもが選択した教育課程について、保護者の満足度は高い。	◇ 引き続き教員一人ひとりが、授業改善に取り組み、新学習指導要領を見据えた授業実践に取り組む。また、ＩＣＴ活用や大学入学共通テストに対応した思考力問題の作成への取り組みも継続していく。 次年度もマスコミ等を通してさまざまな教育活動を紹介したり、地域に直接出向いて働きかけたりするなど広報活動に力を入れていく。
	② 主体的・協働的な学びを育む授業改善に努める。	○ 教員は昨年度に引き続き、主体的・協働的な学びを育む授業改善に積極的に取り組めている。 ○ 生徒の授業の基礎的な内容についての理解度は全体では目標指数に達したものの、２年生が１・３年生に比べて低い。 △ 子どもの学習に対する保護者の満足度は、昨年同様１・２年生の満足度が低い。	◇ 教員からの働きかけや手帳・タブレットを用いたポートフォリオを全学年で併用し、積極的に活用させることで、計画的な学習への意識付けを図る。日々の学びを記録に残し、取組を振り返る機会を設けることにより主体性の育成を図る。 ◇ 家庭学習状況調査等の実施方法を整備し、生徒の家庭学習の状況・実態等を保護者会や学年通信等を通して、保護者と共有する。日々の課題の内容も吟味し、学習しやすい環境を整える。
2 生徒指導 〔生徒指導部〕	① 登校指導や頭髪服装指導を通して、挨拶の励行、時間厳守、身だしなみなどの基本的生活態度の育成に努める。	○ 教員は積極的に指導に取り組んでいる。 ○ 挨拶ができる生徒の割合は昨年に引き続き高く、多くの生徒が場に応じた挨拶ができている。 ○ 保護者からの評価は昨年より高く、特に１年生の保護者からの評価が高い。	◇ 引き続き集会等の指導の機会を利用して挨拶の意味や基本的生活習慣の確立の重要性を理解させるよう努める。生徒会とも協働し、挨拶の意義を考える機会を増やし、すべての生徒が校内外にかかわらず積極的に挨拶ができるよう啓発する。
	② 学校行事やクラス活動､部活動などに積極的に取り組ませ生徒の自主的・実践的態度とリーダーの育成に努める。	○ 教員は個々の生徒に向き合い、積極的に取り組んでいる。 ○ 多くの生徒が自主的・積極的に行事や部活動などに取り組んだ。特に１年・３年生が前年度より、積極的に取り組むことができた。 ○ 保護者の評価も高く、各学年ともに前年を上回っている。	◇ 生徒が学校行事やクラス活動、部活動において、達成感や充実感、自己肯定感を味わえるよう工夫する。個々の生徒に応じた活躍の場を提供できるように学校祭や遠足等の内容を生徒と共に改善し、積極的に参加できるよう支援していく。

項　目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
2 生徒指導 〔生徒指導部〕	③ いじめの未然防止、早期発見・解決に対する教職員の意識の定着・高揚に努める。	△ 多くの教員がいじめ防止に関する高い意識を持ち取り組んでいるが、目標にわずかに届かなかった。	◇ いじめ問題に対し、会議等の様々な機会を利用して教職員間での生徒の情報の共有を図る。研修会等を通して、いじめ問題に関する正しい理解をさらに深める。 ◇ 管理職を中心に、いじめの未然防止や早期発見・早期対応のため、校内研修等において、有効な指導方策を定期的に協議し、いじめ防止に全力で取り組む。
3 進路指導 〔進路指導部〕	① 進路行事の企画や模試の実施・分析を行うことで、主体的な進路選択ができる力を育むとともに、意識の高揚を図る。	○ 教職員・生徒・保護者とも昨年度とほぼ同じ数値であり、目標指数を達成することができた。進路に関する行事や補習、各種講座についての評価は全学年の保護者の評価も高い。	◇ 生徒の実態に合わせた補習や講座の企画を積極的に行っていく。 ◇ 模試への取組に対する事前、事後指導を情報機器を活用しながら充実させる。
	② 学年通信や進路だよりの発行、研修会等をとおして、生徒・保護者への適切な進路情報の提供に努める。	△ 教員・生徒の満足度指数が目標指数をやや下回った。昨年度と比べると特に３年生の満足度が低いが、コロナ禍でオープンキャンパスへの参加などが十分できなかったことも影響していると考える。保護者に対する進路情報の提供については、目標指数を上回ることができた。	◇ 進路だよりや学年通信での進路情報の提供の充実を図る。 ◇ 教員に対しても進路情報の提供を図り、生徒や保護者への情報提供を促す。 ◇ 生徒を通しての保護者への進路に関する情報提供を強化する。 ◇ 生徒へはオープンキャンパスやＷｅｂ説明会等、各種体験の情報提供、参加を促す。
4 中高一貫 教育 〔中高一貫 教育〕	① 地域との連携を密にし、特色ある教育活動を通して、中高一貫教育の充実・発展に努めるとともに、取り組みを積極的に広報する。	○ 本校教職員の評価はほぼ昨年同様に高い。 △ 中高一貫教育に関わる事業実践に対する連携中学校の関係教員の評価が昨年度に比べ低い。 △ 中高一貫中３生徒の授業内容の理解度は高いが、目標指数には達しなかった。 △ 中３保護者の満足度は昨年度に比べ低い。	◇ 連携中学校との連絡・調整を密に行い、事業内容の見直しや、新規の事業について検討していく。また、ホームページや中高一貫通信などを活用して中高一貫教育のさまざまな取組内容を地域や中学校、保護者に対し積極的に広報していく。
5 保健管理 〔保健部〕	① 家庭と連携し、心身の健康に関する知識を深めるとともに、感染症対策としての毎朝の検温・体調チェックをとおして、自己の健康管理能力を育てる。	△ 教職員・保護者・生徒のいずれも昨年度指数を上回ったが、生徒については、昨年同様目標指数を達成できたのは３年生のみであった。	◇ 掲示板や保健だより、個々の生徒への指導を通じて、これまで以上に、健康管理の必要性および感染症対策の大切さを自覚させるように努めていく。

項　目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
5 保健管理 〔保健部〕	② 美化意識の向上と主体的な清掃活動の実践を目指す指導に努める。	○ 校内での教員および生徒の清掃に対する取組は目標指数を上回った。家庭での学習環境の整理に対する保護者の評価は昨年に比べ１ポイント上昇した。	◇ 教室・廊下の整理整頓や清掃週間の指導を通して美化意識を育てるとともに、整理整頓の重要性を認識させるように努め、家庭でのさらなる状況向上につなげていく。
	③ 気がかりな生徒に対する理解と対応に努める。	○ すべての教員が、気がかりな生徒に対する理解と支援を行っている。	◇ 引き続き、保護者、外部機関と連携を取りながら一つ一つの事例を理解し、対応していく。
6 開かれた 学校づくり 〔図書渉外部〕	① ホームページやＰＴＡだよりを通して、本校教育の取組を積極的に広報するとともに、保護者や地域社会と連携した活動の充実に努める。	○ ホームページ更新回数の増加やＰＴＡだよりの詳細な行事紹介により、各学年において、本校の教育活動およびＰＴＡ活動に対する保護者の理解度が高まった。特に、毎年指数の低い１年生保護者において、理解度の高まりが高かった。	◇ 保護者に本校の教育活動についてさらに理解してもらえるように、ＰＴＡだよりの記事の企画・検討を行い、魅力的な紙面作りに努める。また、ホームページの掲載内容の充実を図りながら、保護者・地域社会・中学生などへの広報活動を進めていく。
7 図書指導 〔図書渉外部〕	① 図書および資料の整備と充実に努める。	○ 教職員・生徒ともに目標指数を上回っている。	◇ 図書館の環境整備に努めるとともに、生徒への広報活動のさらなる充実を図る。
	② 朝読書をはじめとした読書活動の充実および読書マナーの向上に努める。	△ 学年が進むにつれて、生徒の指数は下がっていき、全体として目標指数に届かなかった。特に、１年次から自己の取組に対する評価が低かった３年生においては、その評価が大きく低下した。	◇ 生徒に朝読書の意義を理解させるとともに、生徒の興味・関心に合わせた書籍の購入と学級文庫の設置を行う。また、特に１年次の初期指導の充実に努め、自ら進んで読書活動に取り組むような習慣づけを図る。
8 自立支援 〔授業改善・IPT企画室〕	① 手帳とGoogleClassroomを連携活用し、ポートフォリオの蓄積とエビデンスの構築を促す。	△ 全ての項目が目標指数に届かなかった。生徒・教員ともに半数が手帳の活用とポートフォリオの取り組みに対して意識が低い。	◇ 生徒・教員ともに手帳活用に対する意識の向上に向けた声かけを行っていく。ポートフォリオについては記入様式やあり方そのものを検討していく。

備考：「成果と課題」欄の「○」「△」は、アンケート集計結果に基づき、目標指数を達成した場合には「○」、達成しなかった場合には「△」で示している。